

第一回 防災懇談会議事録

7月28日(木) 9:30~11:00 防災センターにて開催

欠席者：横山、角地、林、秋山委員、影山防災施設係長

《危機管理室長挨拶》

黒米危機管理室長：平成11年度から実施している防災懇談会は、区民が主体となって災害対策を進めるために、区民と行政との協働によって、様々な意見を交わしながら、区の防災行政に反映していくことを目的としております。

今年度は、避難拠点運営連絡会の制度発足から10年を迎え、現在の拠点活動の検証を行うということで、実際に訓練等に参加していただきながら、新たな課題等を見出し、ご意見をいただきたいと考えております。

7月23日午後4時35分に発生した千葉県北西部地震では、足立区が震度5強の揺れを記録し、練馬区でも震度4を計測しています。

幸い、練馬区ではほとんど被害がありませんでしたが、都内では、5万台近いエレベーターが停止し、交通網の麻痺が起こるなど報道されております。

また、政府の地震調査委員会の報告では、今後30年以内に70%の確立で、首都圏にマグニチュード7規模の地震が起きると報道されていますが、こういった災害対策の盲点が指摘されております。

課題は様々あり、山積しているところですが、どれも重要なものと考えています。

7月11日には、区報の防災特集号を発行し、この中でも指摘されておりますが、災害対策は、「自助」「共助」「公助」がかみ合って効果を持つものと考えています。

委員の皆様の忌憚りの無いご意見をいただくとともに、今後の練馬区のより良い災害対策にご協力をお願いします。

《委員自己紹介》

<<省略>>

《座長の選任》

- ・ 自薦がないため、鈴木恭一郎委員へ座長を依頼し、拍手を持って承認された。
- ・ 副座長2名のうち、1名は防災課長とし、もう1名は現在調整中のため、次回に選出する。

<<休憩>>

《今年度の進め方》

事務局：今年度のテーマおよび進め方について説明します。

テーマについては、「これからの避難拠点活動について」ということで、阪神淡路大震災を契機に設置された避難拠点について、制度発足から10年を迎え、より科学的

な検証を行うことを基本としています。

委員の皆様全員がお集まりいただく会議を「全体会」とさせていただき、今回を含めて年3回の開催としたいと考えております。

各全体会の間に、委員の皆様には、地域で行われている避難拠点活動に実際に参加していただき、その実態を把握し、新たな視点により課題等を見出していただきたいと考えています。

皆様には、2～3回程度の訓練に参加していただきたいと考えております。

参加する訓練の希望を挙げていただきたいと考えています。

1回の訓練への参加者は、おおむね3名程度までとさせていただきます。

ご希望の無い委員の皆様には、事務局からご案内させていただきたいと考えております。

参加可能な訓練について説明をさせていただきます。

<<訓練内容説明>>

小松委員：これから説明があるのかもしれないが、委員が地域の訓練に参加し、それぞれレポートを提出することになる。

委員は訓練に参加する際、どのような立場でいくのか。また、受け入れ側ではどのような体制で受け入れを行うのか。また、懇談会委員は、なにか委員であることの表示はあるのか。この点で、訓練へ円滑に参加できる体制が確保されているのかを確認したい。

谷治委員：前日もそういう話があったが、避難拠点では、いろいろな形、ヘルメットや制服などが用意されている。

委員にはどのようなものが用意されるのか。レポートの提出についても、800字から1000字ということだが、特定の様式などを用意する必要があるのではないか。

小野澤委員：具体的には、これから参加希望をとったあと、地元の連絡会に防災課から委員の受け入れを依頼します。

委員の皆様には、委員であることが判別できる名札などを用意します。

また、委員の皆様には、外から見た訓練のどのような仕組みがよいのかを見ていただきたいと考えています。

連絡会には、受け入れが円滑に行われるように図るとともに、代表者等と話ができるような仕組みを作っていきたいと考えています。

副座長：委員の皆様には不自由がないように、担当の係長が、地域の方との話し合いを十分にしておきます。

また、訓練の場合には、防災課や避難拠点要員も防災服で参加するとはかぎらず、

地域の方も普段の服装で参加されています。服装は、訓練に参加できるようなものであれば、どのようなものでも差し支えないと考えています。

ただし、ヘルメットや防災服を着用しなければならない訓練であれば、当然用意させていただきます。

訓練の参加方法は、最終的には委員の皆様の判断によりますが、全体を離れて見ていただく方法もあれば、実際に訓練に参加していただく方法もあります。これについても、事前に連絡会と相談しておきます。

谷治委員：レポートはどのように書いたらよいのか。

事務局：様式は問いません。ワードやエクセルなどいずれの形でもかまいません。ただし、音声での入稿はご遠慮いただきます。

締め切りは、訓練参加後3週間後といたします。

レポートは、原則としてインターネットで公開させていただきます。

様式ではありませんが、レポートの各項目を示した参考資料をお付けしているので、必要に応じて活用していただければ、と考えています。

谷治委員：会議、訓練とセットになっているが、両方参加しなければならないのか。

事務局：会議で訓練内容の検討を行い、実際に訓練を行う、といった仕組みなので、できれば両方セットで参加していただいたほうが、より理解が深まると考えまして、セットにしています。

やむを得ず片方だけの参加になってしまう、ということであればそれもやむを得ません。希望調査票にその旨の記入をしていただければそのように調整いたします。

内田委員：事故がおきて委員が負傷したらどうなるのか。

高橋委員：事故については、訓練時の事故補償はありますのでそれを適用します。

川口委員：訓練内容だが、会場の訓練内容を書くのか、自分自身が参加した訓練内容を書くのか、どちらになるのか。

事務局：訓練内容については、当日の訓練内容を配付する場合もあるし、配付されない場合もあります。

参加した訓練の、委員ご自身で感じられた内容を記録していただきたいと考えています。

副座長：基本的には公表するものなので、報告書の中で一連の内容の整合性がとれていないと意味が通じなくなります。

しかし、書ける内容にも限界があるので、参加した訓練の内容全てを書かれても、課題や今後のあり方などと結びつかなくなる恐れもあります。

委員：参加する立場について、外部から傍観するという見方もあるとのことだが、例えば、大泉北小学校の宿泊訓練を見学する場合には、これは宿泊しなくても良い、ということなのか。ポイントポイントを観測するということでも良いのか。

事務局：宿泊訓練も含めて、必ず全てに参加しなければならない、ということではありません。最終的には委員自身の判断で行動していただきたいと考えています。

小野澤委員：今の疑問については、現在、避難拠点運営連絡会が抱えている問題です。

訓練を自ら組み立て、一般の区民等を対象として行う場合、自分自身は訓練に参加することができず、訓練をさせる立場になってしまいます。

今回、委員の皆様は、訓練参加者の立場を取るのか、あるいは訓練主催者の立場をとるのかを鮮明にさせていただき、分析していくこととなります。

このように訓練を行った場合、一般の区民等に対しては良い訓練になるが、避難拠点の指導者として行うのには問題があるとか、問題が見出せた場合にはこのように変えたほうが、指導者にも良い訓練になるだろうというイメージをとらえていただき、掘り下げていただくと、より良いものになるだろうと考えています。

谷治委員：避難拠点訓練実施の際、参加者にアンケートをとっているようだが、そのリストは公表されていないのか。

小野澤委員：古いものは少しあるが、氏名などは記載されているので公表は困難です。やはり、委員自ら見ていただいたことでの報告をしていただきたいと考えています。

内田委員：資料に書かれているとおり、実態を見据えて、新たな視点で課題を見出せ、ということか。

川口委員：実際に参加して受けた印象等を、全て現実のものとして捉える、ということで間違いはないか。

そこで発生した課題をどのようにしたらより良い拠点運営に向かっていくのかということを見出してくればよい、ということによろしいか。

小野澤委員：避難拠点の指導者が、受け入れ態勢への意識はあるが、一般の区民にはそれが伝わらない、ということもあります。そのとき、委員の皆様はそれをどのように感じるのか、ということも重要なポイントになる、と考えています。

委員：地域性があるので難しいことはあるかと思うが、委員として今後の参考になれば、考えている。

座長：つぎは分科会について、事務局から説明をお願いします。

事務局：訓練に参加した結果、様々な視点から、気づかれる点があると考えております。その中で、より掘り下げて論議を深めていきたいテーマ等が見出された場合、委員の同志が集って、設置していただきます。

事務局では、必要と思われる情報を分科会の求めに応じて提供させていただきます。また、必要な場所も提供します。

なお、分科会を設置された場合は、その論議のまとめを、レポートで提出していただきたいと考えています。

座長：今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

事務局：8月から9月まで、資料にある訓練への参加期間を設けさせていただきます。次回全体会は、10月20日(木)に開催する予定です。時間と場所は今回と同じです。

その後、11月から2月までを再び、訓練参加期間として設定させていただき、2月に、第3回の全体会を、今年度のまとめとして開催したいと考えております。

川口委員：11月から2月まで、再び訓練参加期間とあるが、今回と同様に、参加できる訓練が示されるのか。ここにある訓練参加可能な一覧の中から、3つまで選択するということによろしいか。

事務局：そのとおりです。

谷治委員：<<聞き取れず>>

小野澤委員：拠点会議のことですが、先ほど座長から話がありましたが、地域によりやり方が違います。

各地域はそれがベストだと考え、行っているところです。逆に、全員が集まって行う会議のやり方が良いのか、あるいは分科会形式で個別に集まってやるやり方が良いのか、これは委員の方から提案があっても良いと考えています。

したがって、会議のみ複数に参加することも、これはこれで意義のあるものと考えています。

谷治委員：石神井東小の例では、いままで、防犯、防火、交通、地域集会など地域の活動は、南田中団地と別々になってしまっていた。それが、前回から、団地の方々も参加して、うまく行っている。防災活動がきっかけになって、その他の地域の活動が一体になって行えるようになり、このことの良さは痛切に感じている。

副座長：レポートを各委員に作成していただくが、いつごろ集約するのか。そして、第二回の全体会において提出するという。これをどのように扱っていくのか。

事務局：レポートにつきましては、訓練に参加していただいてからおおむね3週間後を締め切りにしたいと考えています。

事務局は、レポートの取りまとめを行います。内容によっては作成者と調整をさせていただく場合もあります。

取りまとめたレポートは、第二回の全体会で配付させていただき、作成された委員から補足事項があれば、発表していただきます。

そこから、新たな視点からの課題が見出されると考えております。それを踏まえて、次回の全体会で11月から2月までの参加可能な訓練の一覧をお示ししますので、再び参加の希望を募りまして、訓練に参加していただきます。

全体会の最終回には、今年度に見出された課題や方策の集約を行う予定です。

座長：特に秋はイベントが多く、地域の役員を兼任している方も多いと思うが、ご協力をお願いしたい。

拠点活動は地域性があるので、100%模倣する必要は無い。特に、先ほど谷治委員から紹介のあった、防災訓練により地域活動の風通しが良くなったということだが、中村でも同じことが言える。

中村小は、西、東の両町会から児童が集まっている。昔、合同で行ったとき、資金的に余裕のある町会の方が、参加者に飲み物を配布した。それから関係がおかしくなっていて、ずっと行われていなかった。それが、再び合同で行うようになって、うまく行っている。

最近、問題となっているのは、中野区から避難してくる住民をどのように受け入れるか、ということである。人の命に関わる問題でもあり、重要な課題であるので、よろ

しく進めていただきたい。

座長：次回は10月20日(木)9時30分から開催する。これをもって閉会する。